



真宗大谷派
高徳寺通信



報恩講 法話

2018年

10月21日(土)

法話『自分免許は危ない』

～親鸞聖人の教えに聞く～

講師：海法龍氏
(横須賀市・長願寺住職)

神奈川県の横須賀から参りました。長願寺と云う寺で住職をしております、海と申します。どうぞ宜しくお願ひいたします。今日は朝からずっと雨ですね、冷たい雨の中ですが沢山お参りいたしました。本当に、あー良かたなあと思ひながら今、ここに立たせていただいております。私の寺でも、こうやって報恩講をお勧めしたり、永代經をお勧めしたりするんですけども、雨が降ると、お参りがガクンと減るんです。まあ今日は心配しておりましたけれど、こうやって沢山の方にご参詣いただけて良かったなあと思ってあります。これから一時間程ですが、お話をさせていただきます。高徳寺さまの親鸞聖人の御正忌・報恩講、大事な行事であります。淨土真宗のお寺にとって一番重い行事、大事な行事ですね。ですから今日の(内陣)お飾りですね:お莊嚴と言いますが、普段のお莊嚴とはまた違つて、こういう綺麗な打敷と言いますが……このように掛けられています。お花もまた素晴らしいですね。お莊嚴も普段よりも重くお飾りするんで

すね。お勧めもね、重いんですよ。普段の「正信偈」とは「節」が違うんです。一番重みのあるお勧めの節になりますけど、それ程手をかけ暇をかけて大事な行事として伝えられてきたということがあります。親鸞聖人が亡くなられて750年過ぎておりますけれども、750年が過ぎてからもですね、ずっとこの報恩講という行事が勤められてきた訳です。なぜ勤められてきたかと言ふと、私たちのお寺は、親鸞聖人のお寺ですね。ですから親鸞聖人の記憶ですね、90年の生涯、そして親鸞聖人という方が出遇われた仏教の精神、南無阿弥陀佛の精神ですね、そのことによつてすべての人の人生が開かれてくる。すべての人の人生がそこに肩を押されるように、苦しい中にあるても悲しい中にあるても生きる力がそこへ与えられてくる。そういう教えとして親鸞聖人は仏教の教えに出遇つていかれたんですね。そしてその教えに当時の方々が、親鸞聖人からお話を聞いて、あー大事だなあと思つた方々が沢山おられたんですね。そして親鸞聖人がそくなつてかかる訳です。肉体は無くなつていけれども、その90年の生涯、そしてその教えというものは、そこに聞いた、触れた方々の心に残るんですね。そして親鸞聖人がそくなつてかかる訳ですね。それは何で残つていいかといふと……記憶として残つていく訳です。で、記憶はね、消えるんですよ。

だから記憶が消えなったためにどうしたかと言ふと、記憶を思い出すために形を設けたんですね。それがこの報恩講ですね。毎年一回報恩講という形を持つたんですね。そしてその形を通して親鸞とこう人の人生をあらためて記憶として蘊りをして親鸞とこう方が出遇われた仏教の教えによつて、もう一度私たちの中に蘊り、その教えは何のためにあるかっていうと、私たちがこの人生を歩んで行くためにかけがえのないものとして、すべての人を開かれて、すべての人に届けられてきた「アシダラ」お釋迦さまの精神ですね。そのお心に、また触れそのお心をまた記憶として思い出す。すべての人があれられていく世界だつていうことです。そういうことを私たちが田じいおこさせていただく。人間として、このことがなければ私たち人間が、人間として生きるということは、なかなか難しいんだと。そういうことも含めて、そつに思いおこすために形が設けられてきました。もう少し言つながらば、この真宗のお寺といつ形ですね。この形は何のためにあるかと言うと、親鸞聖人の記憶をそこにつけて、親鸞聖人の記憶を伝持して、聖人の記憶が消えないために、お寺があるんですね。そこは先程も

言ったように：なぜかとどうと人間が生きていくために、この教えがなければ生きていけないからです。そう、うことを頗してくださつたんですね。住持してきましたんですね。培つて届けられてきた。その教えに遇らなければ私たちの人生が開かれないと、そういうことを私たちの先輩も同じように、こういつ形でお勤めをしてお話を聞いて、そして相談してきたんですね。住持されるから、そこには相続されてきたんですね。どうしても忘れてきますから。お經もね、文字になつたとこうことは、お釋迦さまのお言葉を、忘れないためなんですよ。それを後々の方が文字にしたのが經典ですよ。だから經典に触れるといふことは：經典は形、文字も形です。文字をこうやってせせめぐる。文字を元にしてこの形があるんですね。阿弥陀さまの世界だけでも、それはひとつの形なんですね。文字の元は言葉。言葉には何があるかと云ふと、言葉には願いがある訳ですね。ですから私たちは願いを聞くために……このお寺がありますから私たちは願いを聞くために……このお寺があります。親鸞聖人の報恩講といつ形を通して、願いを聞かせていただくのだ、ということでしょう。私たちは願われているんだと。あなたの人生、どういう風に生きてますか？と言つて私たちに問いかける。願われているんですね。で、この記憶って、つ言葉を非

常に印象深く思つたのは、ノーベル文学賞をとつた
カズオ・イシグロといつ方…僕は名前しか知らなか
ったんですね。小説は読んだことなかつたのですが、いろい
ろな方々がカズオ・イシグロさんことを話してうし
やるのを聞く中で、この“記憶”といつのが人の人の
根底に流れているんだとうです。5歳まで長崎
におられたそうです。それからイギリスへ渡つて行か
れたら。で、やっぱり日本語は忘れて喋れないという
ことありました。だけども、5歳までの記憶、どう
のがあるんですね。そこで皆つて
きたもの、感じたものがある訳
ですよ。勉強したとかね、どう
いうことではなくして、その感覚
ですよよ。感覚があるんですね
ね。その感覚に基づいて小説を
書かれたんでしょうね。「遠い山なみの光」(1982年)
タイトルの小説があるそくです。他にも沢山あります。
「私を離さないで」(2006年)と、うちは臓器移植の話ら
です。映画にもなったそくです。近年では「忘れ
られた巨人」(2015年)ですか。ファンタジー小説のようです。
巨人って何かと、巨人といつは“記憶”だて言
うことです。記憶が忘れられたつていうことですよ。
世界を見ればそういう風潮があるんじゃないでしょうか。
うかねえ。記憶って何かと、歴史ですよね。歴史
を忘れるといつことじやないですか。記憶が無くな
るといつことじやないですか。



ていく。戦争した記憶も…ね。私たちの先輩たちが
人類が…どう生きてきたか、どう歩んできただか：
と、う、との記憶が薄らいでいく、無くなっていく
ことではないでしょつかねえ。だから…去年も言
ました、が、原爆ドームといつ形が、やっぱり私たち人
類には残されていかなければならぬですね。あれ
が無くなると…もう忘れそうだけど、あっても薄れ
ていくけれども、無ければもとと薄れていきますよね。
広島の原爆資料館ありますよね。あれも、あの
形があるといつことがね、とても大事なことなのでは
ないでしょつかね。無くなつていくと薄れるんです。形
があれば思ひ起こしますね。だから私たちの先輩た
ちは、この報恩講と、うことを通して、親鸞聖人のこと
をあらためて思ひ起こして、そして親鸞聖人の教え
をもう一度私たちの記憶の中にとどめよう。そうい
う行事として勤められてきた訳です。ですから七百五十
数年前の方の人生や生き方や教えがこうやってずっと
私たちの中に届けられて、そこでまたそれを私たちが思
い起こす訳です。それを仏教の言葉で言うと「憶念」
と言います。南無阿弥陀仏：言葉が元ですかう。
南無阿弥陀仏を元にして、その教えが親鸞聖人ま
で届いてきました。南無阿弥陀仏を元にした形です。南
無阿弥陀仏を元にした經典ですね。ですからそこには
人間とは何か？人が生きるとは何か？そりとこりと
私たちは人生をどう生きていくのか？そつこつことか

お經の心ですから。南無阿彌陀仏の元ですかうね。それ
を思ひ起こすんですね。本山(京都東本願寺)で出版し
てある赤い勤行本……そのP.17の一頁目に「憶念弥陀仏
本願」とありますね。はい、一緒に読みましょう。「おくね
みだびつほんがん」憶念の「念」と、弥陀仏の「仏」で「念佛
念仏申す。念佛申す」ということは、願いを聞くことです
ね。仏の本願。阿彌陀とは何か? 阿彌陀とは本願。願
いですよと書いてある。阿彌陀さんと言つんだけど
も、阿彌陀さんというその言葉には、何があるか? といふ
と、願いがありますよと。阿彌陀さんがどこかにいる訳
ではありませんよ。阿彌陀と云う言葉には願いがありま
す。私たちが願いを頂くために、阿彌陀と云う言葉が
ありますよ。形がありますよ。文字がありますよ。そ
して願いを聞いたら、そこに憶する、思ひ起こす。思ひ
出す。私たちの中に流れ出る本当に人間として大切な
感覚があらためて呼び起こされた。その感覚を呼
び起こすために仏教がある。仏教の言葉がある。
南無阿彌陀仏がある。ということは、私たちは人間と
して生きながら、人間として大切な感覚を失って生
きているといふことです。そういう姿が私たちの姿じゃ
ないかと云つのが仏教の人生觀ですね。なんで人間と
しての感覚を忘れるか? 人どう存在は、凡夫だと
言われてゐる。その凡夫は、すべての人が凡夫だと言わ
れています。我々は凡夫として生きながら、凡夫であるこ
とに気づかず生きている。その“凡夫”と云う意味は何

か? 人間とはどんな姿で生きているか? どういつ
とこうに立つて生きているか? 凡夫といつのは心を
持つてますよ。心を持った存在が人ですよと。すべて
の人は人あって、心を持った存在だから凡夫ですよ
と。その心を持った存在を何で言うかと云つと、善
悪と云う価値感を持って生きている存在ですね。善
悪といふ価値感を持つて生きている存在ですね。
ですからそれを、「一切善悪凡夫人」という言葉で
示されます。赤本でP.10。と一緒に読みでみましょ
う。「いっさいせんまくぼんがん」この善悪です。我
は善悪で生きている訳です。仏教の価値觀ですね。
自分が良いと思つうものが良い。自分が良くな
と思つうものは良くない。だいたいは、そういうところで
生きている訳ですね。それをね、「自分免許」って
言つうんですね。今日のテーマは、「自分免許は危
ない」だそうですねよ。報恩講、前回、住職と今年
のテーマについて相談したときに、「住職からこのテ
ーマでお願いしますと言られました。自分免許で
すよ。自分の考えてることが良い、自分ルールが
良い。自分のルールに合わないことは悪い。たしかに
ルールはありますよね。でも自分が考えたルールもあ
るでしょうけど、万人が同じルールとして持つルール: そ
れがせりと、自分だけのルールだと、一方通行にしかなら
ない場合もありますよねえ。ルールってことを仏教の
言葉で言うと、「道理」と言います。道理と云うこ
とを何と言うかと云つと、「法」と云う訳ですね。免許

がない人が、運転したうづりますかねえ？
道路標識も分からぬ。一旦停止も分からぬ。
これが何キロスピードを出して良いかも分からぬ。
どうなりますか？ 事故が起るぬ。事故が起
ることうつへことはどうづうことですか？ 事故が
起るうけが怪我をする。相手も怪我をする。自
分も怪我をする。怪我だけならまだ良いかもし
れぬけれど、中には死ぬ場合もあるぬ。つまり
どういふことか？ うとルールを無視すると、
相手を傷つけるし、自分も傷つくとこうことで
しまうねえ。だから自分が法
だとどうなりますか？ 自分の気持ちに合わな
い人間はどうなりますか？ 小池百合子さんみ
たい。(笑) 私たちもそうだけど……何で言いました
小池さんは？ 「排除」……キツイ言葉なんだね、
これね。だから皆ぬ、人間的感覚の本能がある
からさ、やっぱり嫌だと田つたんうつせあ。実
際はそうだよね。考え方の合わない人とやる訳
せいから……少なくけど、やっぱり排除っていう
言葉はとてもキツイ言葉なんだよね。「さらさう
ありません」なんて言ったから(笑) 余計嫌われち
ゃてぬ。まあ、あの人だけの問題じゃなうです。
私たちも排外的なものを持ってる訳なんですが
すよ。自分の価値感の範中に合つか合わない
で生きているから。夫婦でもそうぞしょ？ 一緒
ですか？ 一緒にやなうねえ！ 兄弟どじお？

親子は？ ……違ひぬき。同じ日本人でも…違う。もちろん
共通するものはあるかも知れぬけれど、違う。他の国の方々
とはどうかって言つたら、やっぱり違う。違うけども、一緒に
生きてるんですよ。一緒に生きていけばんで
すか？ 一緒にならぢゅや、一緒に生きていけないと言つたら
戦争にならぬです。違うとも一緒に生きていければ戦争
を回避するんですよ。排除って心は消えませぬ。あるか
ら。あるけど、痛ましいとなんですよ。本当はぬ。我々は
いつも良いことばかり求めで嫌なものは排するから。(ま
ず)で生きているんだね。分かりやす。受け入れるか、受け入
れなか……とこうしてしあう。そういう形で生きているこ
とを「自分免許」という。危ない。なんとかこうと人を傷
つける。排除だから！ 自分も自分の想いに合わせなければ
自分さえも排除する。ダメな自分をダメな自分として
レッテルを自分で貼る。そうすると自分はそのレッテルに
よって生きていけなくなる。他者もそうですね。他者に
ダメだと書いてレッテルを貼つたら、その人は生きる力を奪
われますよね。差しにある中でね、違うがある中で、その人
の能力や才能だぬ。本当は引き出さぬといかなきやならぬ
い。だけど自分の考え方で合わないとき、その能力も才能
も見えない。自分のフレームしかねから。自分のフレーム
を隣の人にはめるとです。そのフレームの中に収ま
てくれれば「イイ人」、フレームの中にはまらないと「良くない
人」…となる訳ですよ。まあそんなことを私たちはくり返
しながら無意識に生きているとこうとじやむりでしょう
かねえ。そういう姿で生きていることだが、本当に生きただこと

生き方で生きているのに、そういう生き方に氣づかずして生きている者はどうなんでしょうか。そういう心というものは、なかなか無くならなければ、そういう心で生きてたってことですね、どこかで感覚する？どうかで感覚するってことはね、大切なことはなにですかね。”一切善惡凡夫人”だから聞いてほしい、だから知ってほしいと、その言葉には、私たちが忘れてしまう記憶から失われてしまっている大切なことがあります。それが私たちに対する言葉を通して広く書いて願われている言葉ですね、南無阿弥陀仏。それは如来という一つの仏さまの世界として表現されている訳ですが、その願いを、南無阿弥陀仏の阿弥陀の願いを聞いてくださいと。聞くってことは、どこに知りされてくることですねえ。この知ることを親鸞聖人は“信”とおしゃります。知りされた心を“信心”と言います。P.12を見てください。最初から読みましょうか：“一切善惡凡夫人”：だから聞いてほしい…ハイ、「聞信如來弘誓願」：広く書われた願いですねえ。広くすることは、全ての人にとっていうことです。全ての人が善惡という価値観でもって狭い狭い枠組みをもって、自分だと感じ込んで生きてる世界ですね。それを人に近づけていくような生き方。そういう生き方は、お互いの気持ちを傷つけていることがありますよ。そういうことを私たちに知ってほしいと、そういうことを私たちに感覚してほしいと。いのちはどんな人も傷つけてはならないですよと。そういうことをいうのかと一つことを感覚する。でもそれを傷つ

けてしまっているような私たちの心があるんだと。その心にも目を開いていこう。その心に私たちはこんな心で生きていたのってことを感覚していく。知るということはねえ、知識、教養じゃなくてよね。勉強じゃなくて、学問でもないです。何やって言うとね、人間としての感覚を取り戻すといふことなんですね。だから知るってことは…、安田理深と云う先生は、それを感知とおこった。感覚するんだっていうことですよ。我々はそれを失そね、自分で考えることが正しいと決めて生きている訳ですね。安田理深と自分が経験したことや、学んできたこと、自分の境遇：それが大事だと思っちゃってるってことですねえ。アイデンティティと言ふけれども、大切なことだけれども、危うさがある訳です。日本人のアイデンティティって言う時に、他の国と比べて自分たちが上だっていう意識がどうしても出てくる訳ですよ。日本人たちのアイデンティティ。そこには黒人とか黄色人種の人たちに対するどういう眼があるかな。アジアの中の日本と言った時に、アジアの国々に対する私たちの日本…、アジアの一員だけじやあどういう立ち位置かっていうと、どこかで上から下へって言うね、意識っていうのが流れているってことがある訳です。それは私たちが、この歴史の中で実は記憶してきたことは必ずよね。でもそれも又、それられてしまつ。忘れなによろに、正しいことも忘れちゃいけないけど、間違ったことも忘れちゃいけない。本当のことも忘れちゃいけないけど、本当に背いてきたことも忘れちゃいけない。そういうことをね、我々に、全人類に南無阿弥陀仏のお言葉を通して、我々にその本願”



願いが教えになります。願いが言葉になります。その願いの言葉を聞かさせて頂ければ、知らされる。感覺するときに我々の人生が開かれてくる。そしてそこから歩みがはじまる。教えられたことを行って歩む。真実を元にして歩む。南無阿弥陀仏の心を元にして歩む。それが歩みです。歩みがはじまるんですね。それを「教語開道」と言います。教えの言葉が私たちに開いてくるんだといふことです。¹一緒にどうぞ「きょうじかどう」開かれてくるんだ。何が開かれてくるのか? 教えの言葉には智慧があります。だから、真実を元にした智慧が私たちの中に開かれてくる。その智慧に入らしめらる。その智慧は言葉の中に願いがあるから、願いに触ると智慧を頂く。非常に深い智慧を頂くから海:「開入本願大智海」ですね。開入:開く。お經の言葉には私たちを開くという意味があるんですね。²一緒に「かにゅほんがんだいかい」赤本のP.26智慧:ものの見方、考え方。海のよう深くて広い...底はしつて書いてある。お經には、人間の知恵はね、広くて深くて底が無いって書いてない。人間の知恵はね、私たちの能力、私たちの見方、経験したこととはね、浅いって書いてある。私たちはどうかんに頑張ってもね、宇宙に行けるような力を持ってもね、どんな人も、浅知恵ですよ。如來の智慧は深いじだつて説です。私たちのね、底の底まで迷いの姿をそこに

明らかにしてください。だから「開入本願大智海」:智慧だって言つんですね。私たちの知恵は、いつも書くんだね。面白いですね。仏教の字の使い方。仏さんの智慧は、こっちだつて言ってるけど。使い分けがあるんですね。私たちの知恵は浅いって言つんですね。浅い知恵で、良いとか悪いとか言つてるんですね。良いとか悪いとか言つてる姿が浅い訳です。自分に合つか合わないで生きている...これは浅い訳です。なんでもかって言つと隣の人があんな気持ちで生きているとか、どんな背景を持っていますか? こつとは、二の次だから。自分の考え方があたり。そうなる訳です。去年も言いました。私たちは「3だけ主義」で言いました。覚えていらっしゃいますか? 我々の浅い知恵です。氣がつかないけど、3だけ主義で生きているって言つんですね。どうしてますか? なぜれるからいいんですよ。笑:何から? 言つて、「今だけ、金だけ、自分だけ」(笑)笑った人は、じ当たりあるんだね。今さえ良ければいい。浅知恵。今さえ良ければいいって...。今、経済が良ければいい。これまでやってきたことはどうでもいい。これまで間違ったこともあるかもしないじゃないですか。そうやって、経済活動をみて、どうだったのか。これからはどうせのか。政治も一緒やね。今までどうだったのか。これからはどうせのか。どうせなのか。2年前のことをやめていいのかな? 田中さんはどうせのか。政治も一緒やね。今までどうだったのか。これかは、どうせのか。どうせなのか。どうせなのか。どうせなのか。や、やはり人と人を殺し合うといつか、傷つけ合うといつか、どうせなのか。どうせなことがあても解していかなくちゃいけない。国と国や民族と民族がいがけ合つたらどうなるか、といつのは、歴史が証明している訳ですから。その記憶をね、忘れちゃいけない! つづいて、「戦後の憲法の一つの姿じゃなかったかな? 申上げませんが...。明日は何の日? "選挙" ...ねえ。どこ

でもいいですよ。ど、でもイイんだ。それは自由だから。
だけじ人がお互に傷つけ合うようなことをね、是認するよ、うなものはね。教育であろうと、政治であろうと、宗教であろうと、経済であろうと……それは人間の本来失つてゐる……人間としての感覚を失つて政治をして、人間としての感覚を失つて経済活動をして、人間としての感覚を失つて教育をして、人間としての感覚を失つて坊さんやつてゐる訳だ。まあ、そのくらいの問いかけはぬるくらいの問い合わせはあつた方が良い。でないといつのやそいることは、せーぐぶ、いつも正当化するだけよ。正当化ばかりする政治家の発言とか言葉は軽いね。

どうぞしようかね。私はそろ感じますけどねえ。でもね、人間だ。どんな人も絶対はない。本来に背いてよく存在もある。誤ちを犯してしまつと、うつことは私たちはつきものです。自信を持つことは大事ね。大事です。だけど自信を持ったとだんだん人の言ひつことを聞かなくなり、自分のやつたことにしがみついて、自分はこれをやつてきたから、良かったんだとうつ……過信に陥る。ねえ、なかなか面倒ですよねえ、私たちさ……。だから自慢話になる訳だ。この前も3時間半自慢話をした人がいたねえ。(笑)権力を保持して、隣に前の権力者もいてさ、自分の思想心を入れるんだよ、個人名で。北朝鮮と変わらないよねえ。その句、をトランプさんはも感じじるよねえ? 安倍さんにもちよと感じる。(笑)そんな全部、今さういう傾向? 独裁チック。ヨーロッパも右系化してるでしょ? 独裁チックです



よ。世界中、そんな感じがいたしますよ。独裁チック。大丈夫? (と、金職の方をチラシ)(大笑)過つ。自分で許を過つ。えーと、私の好きな詩人で、吉野弘吉という方がいる。ご存知かなあ? 有名なのは、祝婚歌が「過つ」と「つ」の字を使って詩を書いていらっしゃる。びん昔にこの詩に触れてねえ、非常にズシンときました。どんな詩かって言うとねえ……日々を過ぎず。日々を過つ。二つは一つことか。生きることは、そのまま過ちであるかもしだれない日々。「過ぎす」じよ? 過ぎすとは生活している、生きていることですよね。過ぎしてきました。過ぎてきて人生だけど、もしかすると何々氣づかな? ところで過ちを、重ねてきたんではなきか……つていうことです。この日本もねえ、人類もねえ、こうやって錦々と伝えられてきたけれども、もしかすると、過ちを重ねてきただんじゃないかと。過ちでことは、どこか本来を忘れてきたんじゃないかってことではないでしようかねえ? 本来とつことを見つてしまつた、感覚。そして過つてきただけど過つたことには氣づかないといつ私たちの姿があるといつことおっしゃっているんだと思いました。いかがお過じですかとハガキのはじめに書いて、おちつかない氣分になる。あなたはどうな過ちを犯していますか。それがね、どんな過ちを犯してますかとね(笑)問ひ